

# 花さき山

タイトル文字: 滝平二郎



## おはなし会

3月 13・20日(日)

14:00~14:30

★スタンプカードをお配りしています。  
おはなし会に参加するとスタンプを  
1つおします。  
スタンプ5こでプレゼント贈呈!



## ブックスタートクラブ

毎週水曜日は視聴覚室開放 day♪

(9:00~17:00)

ボランティアの方や子育て支援センターの  
先生による子育て相談や絵本の読みかせ↓  
3月 2日, 9日, 16日, 23日

※2日・9日・23日→10:00~  
16日→11:00~

## 「ぬいぐるみ」のおとまり会

おうちにある「ぬいぐるみ」が、持ち主に代わって図書館体験!!

ぬいぐるみをお返しする際、体験中の様子をアルバムにしてプレゼント☆

**場所:** 明野図書館

**日時:** お預かり日 3月12日(土)、13日(日)

お迎え日 3月19日(土)、20日(日)、21日(祝月)

※0~12歳までが対象となります。1人につき1体です。

参加希望の方は12日、13日の9:00~15:00までにカウンターへ  
直接「ぬいぐるみ」と一緒に来て下さい。先着10名様までです。



## 一日図書館員体験

**場所:** 明野図書館

**対象:** 小学4年生~6年生

**体験日:** 3月29日(火)、31日(木) 13:00~16:00

**人数:** 29日、31日それぞれ2名ずつ。(合計4名)

※参加ご希望の方は、3月13日(日)までに  
直接カウンターまでお申込みください。

詳しくは、チラシをご覧ください。

## 映画会&特集コーナー

3月は図書館体験があるので、映画会も  
特集コーナーも「仕事」がテーマ!

### 【映画会】

日時: 3月27日 午前10:00~11:50

作品: 「ぼくたちと駐在さんの700日戦争」

(上映時間110分)

### 【特集】

児童から大人まで楽しめる、「仕事」をテ  
ーマにした本を大特集!



## 『二宮金次郎(尊徳)』に係わる筑西の人々 — 道徳を「特別の教科」に格上げ —

小石川 功

小中学校の『道徳の時間』は、これまで教科外の活動という位置付けでしたが、文部科学省は昨年3月、学校教育法の施行規則を改正し、道徳が「特別の教科」に“格上げ”されました。道徳に関する指導要領が示され、「わたしたちの道徳」小学校一・二年では「自分でやることはしっかりと」の中で「小さな努力の積み重ね」で登場した二宮金次郎は、筑西市が昔大変お世話になった類を見ない農政家なのです。

1787年小田原に生まれた金次郎は大変な勤勉化でした。幼くして洪水に遭遇し一家の貧困生活が始まりました。16歳ですでに両親を亡くしましたがその勤勉さは小田原藩主の目に留まり、36歳の時疲弊した筑西市の隣町、真岡市の桜町復興を命じられ着任しました。幾多の苦難を乗り越え10年の歳月で見事復興を果しました。特に天保4年の天災、凶作の大飢饉でも餓死者を1人も出さず乗り切りました。桜町は下館より数里の距離にあり、生活にあえぎ切っていた下館の領民を羨望させていました。

ここに筑西市で尊徳翁とかかわった人々の一端を紹介し道徳教育の教材となった尊徳との関係を紹介し、3年前、報徳壹圓塾の手によって市内12カ所に二宮尊徳足跡の由緒書看板が設置されました。その中から特筆される筑西市の3人の由緒書を紹介し「道徳的実践力」を伸ばすお役立ちになればと思う次第です。

1人目は下館城跡に設置の由緒書より、下館藩奉行衣笠兵太夫です。下館藩救済の仕法実施を何度も粘り強く懇願した誠実な態度が認められ、仕法開始の立役者となりました。更に桜町陣屋の留守居役や尊徳の子息婚姻に関し仲人役や親代わりなどの大きな役割を果たしました。

2人目は上牧整骨院通路側に設置の由緒書より、下館藩筆頭家老上牧甚五太夫です。下館藩救済の仕法開始にあたり尊徳が直接指示した財政再建仕法案の先頭に立ち俸禄全額返上を申し出て手本を示し、これを契機に役人の減俸運動が進み、17年間で藩の財政を立直す事が出来、尊徳よりその決断を絶賛されております。

3人目は下高田屋敷内に設置の由緒書より、桜町陣屋に近い下高田村名主大山太助です。下館藩仕法開始の5年も前まだ桜町仕法の最中にもかかわらず、金次郎に下高田村の困窮の救済を懇願、高田村本田を含む近隣6カ村の領主が異なる複雑な関係をまとめ見事復興をなし得なえました。

太助は尊徳の信頼厚く、二宮仕法が領外の大名領・旗本領へ伸展する際に、二宮先生の番頭的役割をし、更に、尊徳1番弟子となる相馬藩士富田高慶に入門許可が出るまで、納屋を提供し寺子屋を開かせ許しが出るまで面倒をみました。実務を学ぶかたわら、側近として尊徳活躍の詳細を記録した「報徳記」を著したのが富田高慶です。

明治政府から勅版刊行され全国知事に「報徳記」が配布され、尊徳の活動が明らかになりました。その後、少年期の勤勉をクローズアップした二宮金次郎物語が国定教科書を編修されました。親に孝行・勤勉・兄弟愛を道徳教育の手本とし、明治37年から昭和20年まで42年間修身教育の定番で掲載された。幼少時の薪を背負い読書に励む姿が指導の対象とされ、更に、8年後の明治44年には尋常小学校唱歌「二宮金次郎」が完成しました。

滋賀県の自殺問題を踏まえ、教える内容には新たにいじめの防止も盛り込まれました。道徳の教材をただ読むのではなく、問題解決や体験的な学習なども取り入れ「考え、議論する」道徳教育がスタートしております。

(ちくせい観光ボランティアガイド協会・副会長／報徳壹圓塾 副塾長 こいしかわ いさお)

